

留萌の民有林

2021



北海道留萌振興局

目 次

1	留萌振興局の概況	
(1)	地 勢	1
(2)	気 象	1
(3)	人 口	1
(4)	産 業	2
2	森林資源	
(1)	森林面積	3
(2)	森林蓄積	3
(3)	一般民有林の齡級構成	3
3	森林所有者	4
4	森林組合	4
5	森林整備	5
6	木 材 産 業	
(1)	素材の生産	6
(2)	素材の消費	6
(3)	木材工業の現況	6
(4)	特用林産物・木材利用推進等	6
7	治 山	7
8	路網整備	8
9	保安林・林地開発規制	
(1)	保 安 林	9
(2)	林地開発規制	9
10	木育（もくいく）	
(1)	道民の理解の推進	10
(2)	青少年の学習の機会の確保	11
(3)	道民の自発的な活動の促進	11
(4)	その他の活動	11
11	流域森林・林業の活性化	
(1)	概要	12
(2)	取組状況	12
12	普及指導	
(1)	普及活動区域と森林所有者数	13
(2)	人材の育成・確保	13
(3)	林業普及指導事業活動計画	14
(4)	主な展示林等	15
(5)	最近の特徴的な取組	15
	付 表 目 次	16

1 留萌振興局の概況

(1) 地 勢

留萌管内は、北海道の北西部に位置しており、西部は日本海に面し、南北約 130 km、東西約 60 kmの南北に長い地域で、北は天塩川をはさんで宗谷地域に、南は増毛山地をはさんで石狩地域に、東は天塩山地をはさんで上川地域、空知地域に接し、管内の総面積は、3,445.89 km²で北海道の総面積の 4.1%を占めています。

(2) 気 象

気候は、日本海岸式の気候であり、対馬海流の影響で緯度の割には比較的温暖で、北部と南部の平均気温はほぼ同じです。

4月上旬の雪解けとともに急速に暖くなり、8月にかけては風も弱く海も穏やかな日が続きます。秋は短く10月下旬に初雪が降り、冬は北西の季節風の影響で、海上海岸で風速 20m/s 以上となる日や、5m を超える波浪が発生する日も珍しくありません。

1年の約半分を占める冬期間は日本海側特有の吹き上げる風が地吹雪を起こし、視界不良や吹きだまりによる交通障害の原因になっています。

(3) 人 口

当管内は、1市6町1村で構成され、管内の人口は、昭和30年代前半の約13万人をピークに減少が続いています。

令和2年10月に実施された国勢調査によると、管内人口は4万3,050人で、平成27年に比べ4,862人(10.1%)の減少となっています。

人口減少の要因は、基幹産業である農業、漁業や鉱業の低迷によるもので、若年層を中心とする人口の流出により、過疎化と高齢化の進展が著しく、管内全市町村が過疎地域の指定を受けています。



【増毛町】雄冬岬展望台からの景色



【留萌市】移輸出向けトドマツ材（留萌港）

(4) 産 業

産業別就業構造の推移を見ると、米の減反や農業の近代化による省力化、木材不況、漁業経営の不振などから第1次産業の就業者が大幅に減少した結果、第3次産業の就業者の割合が増加してきています。

農業では、南北で異なる自然条件を生かし、稲作・畑作・野菜・果樹・酪農などバラエティーに富んだ農業が営まれています。

水産業では、沿岸域ではたてがい養殖及び稚貝生産、カレイなどの各種刺し網、さけ定置網、たこ漁業などが営まれているほか、武蔵堆などの好漁場を擁する沖合域では、えび、たら漁業などが行われています。

項 目	留 萌	全 道	比率(%)	備 考
15歳以上就業者数 (人)	21,678	2,347,270	0.92	R2年国勢調査
1次産業 (人)	3,527	156,298	2.26	〃
林 業 (内数) (人)	173	6,448	2.68	〃
2次産業 (人)	3,828	387,947	0.99	〃
3次産業 (人)	14,247	1,738,586	0.82	〃
経営耕地面積 (ha)	22,866	1,028,421	2.22	2020年農林業センサス
農業経営体数	744	34,913	2.13	〃
漁業経営体数	361	11,089	3.26	2018年漁業センサス
森林面積 (ha)	285,999	5,535,220	5.17	R2年度 北海道林業統計
民有林森林所有者数	4,051	136,672	2.96	R2年末 森林計画課調べ
卸売・小売事業所数	560	46,282	1.21	H28年経済センサス
従業者数 (人)	2,819	390,952	0.72	〃
年間販売額 (百万円)	82,062	17,999,617	0.46	〃
製造事業所数	48	4,982	0.96	R2年工業統計調査
従業者数 (人)	1,494	168,703	0.89	〃
製造品出荷額等(百万円)	24,879	6,048,894	0.41	〃

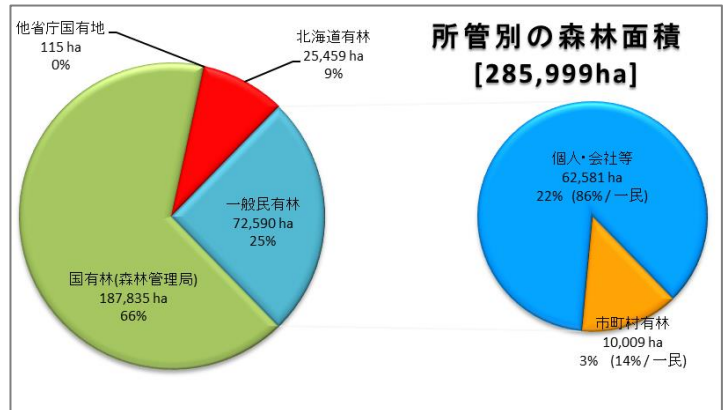
2 森林資源

(1) 森林面積

管内の森林面積は 286 千 ha で、北海道の総森林面積 5,535 千 ha の 5.2%にあたります。

所管別では、国有林が 187,835ha で 66%、道有林が 25,459ha で 9%、一般民有林が 72,590ha で 25%となっています。

一般民有林の内訳は、個人・会社所有が 62,581ha で 22%、市町村有林が 10,009ha で 3%となっています。

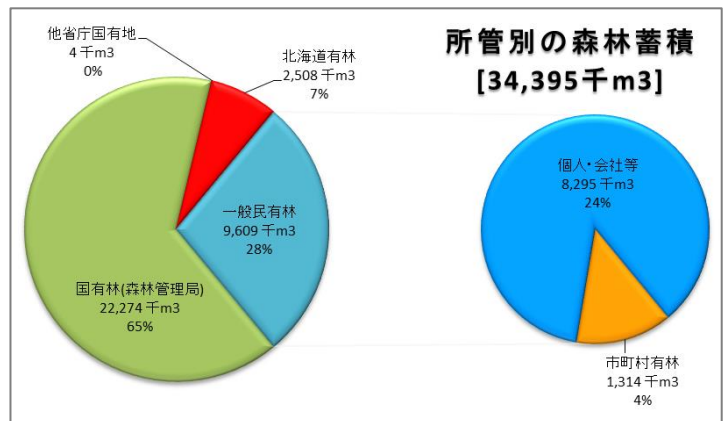


(2) 森林蓄積

管内の総森林蓄積量は 33,439 千 m³ で、北海道の総森林蓄積量 836,942 千 m³ の 4.1%にあたります。

所管別では、国有林が 22,274 千 m³ で 65%、道有林が 2,508 千 m³ で 7%、一般民有林が 9,609 千 m³ で 28%となっています。

一般民有林の内訳は、個人・会社所有が 8,295ha で 24%、市町村有林が 1,314ha で 4%となっています。

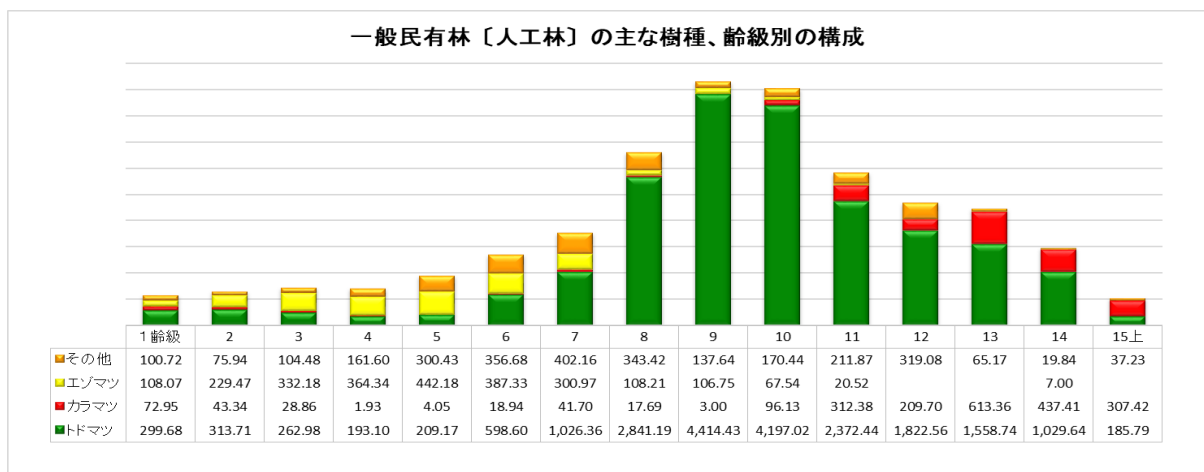


(令和2年度北海道林業統計より)

(3) 一般民有林の齢級構成

一般民有林の構成は、人工林 39.7%、天然林 56.3%、無立木地 4%となっています。また、人工林の樹種ではトドマツが 74%を占めていますが、近年はアカエゾマツの植栽が多くなっています。また、一般民有林の人工林は 9 齢級以上 (41 年生) 以上が 65%となっており、成熟した人工林資源の計画的な伐採と確実な再生林の推進が課題となっています。

(令和2年末 道森林計画課統計情報より)



※齢級：林齢を 5 カ年ひとくりにし、まとめたもののこと。林齢 1～5 年生を 1 齢級、6～10 年生を 2 齢級...と続く

3 森林所有者

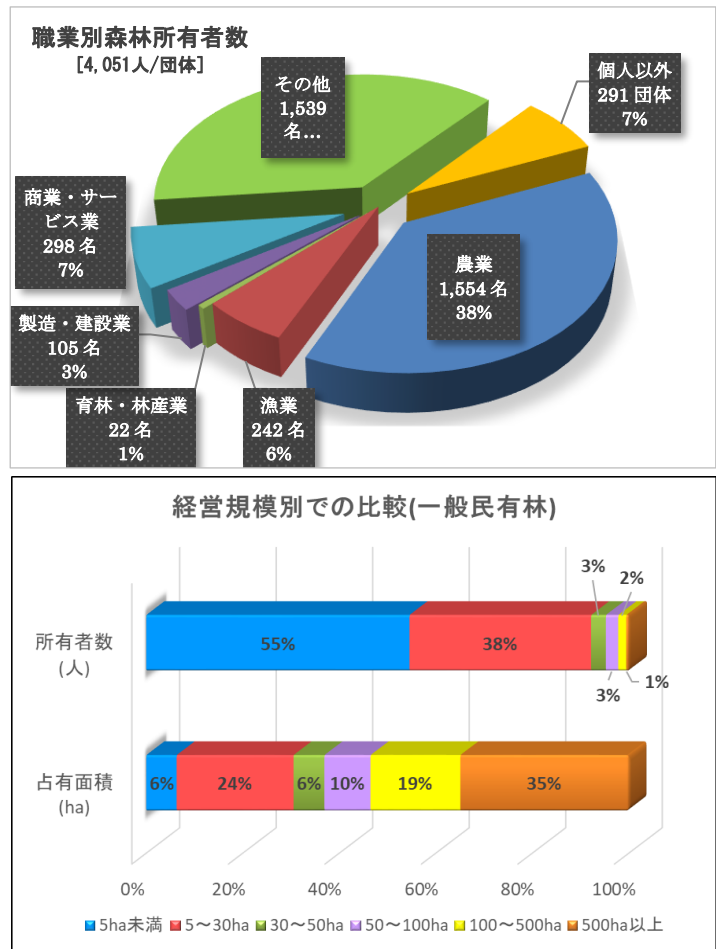
管内一般民有林の森林所有者数は4,051名で、そのうち個人所有は92.8%の3,760名となっています。

職業別の割合では、農業従事者が多く、全森林所有者の38.4%を占めています。

また、5ha未満の零細な森林所有者数が54.5%と半数を占めていますが、一般民有林に占める割合は6.3%と少なくなっています。

一方、100ha以上の大面積を所有する森林所有者数は全体の2.2%ですが、森林面積は53.5%と一般民有林面積の半数を占めています。

(令和2年末 道森林計画課統計情報より)

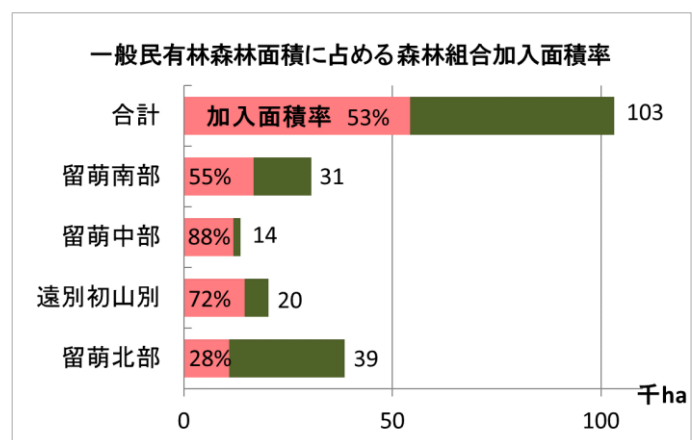


4 森林組合

管内には4つの森林組合があり、組合員数1,468人、加入面積54,214haとなっています。

一般民有林における組合加入率は面積で53%を占め、未加入所有者は主に会社、不在村所有者、零細所有者となっています。

主要事業の内訳は令和2年度で販売事業21,024m³、林産事業412m³、森林整備事業1,926haであり、事業総取扱高は約710百万円と地域林業の担い手として大きな役割を果たしています。



※ 各森林組合の令和2年度実績

※ 留萌北部の地区内森林面積には幌延町を含む

5 森 林 整 備

管内の一般民有林のうち人工林は28,816 ha（天然林40,836 ha）となっており早期の森林整備が必要です。

道内の人工林における森林整備は、再造林と搬出間伐を主とした森林資源の有効活用を図る施業に移行していますが、管内ではこの動きに同調出来ていない状況にあります。

管内の主な造林樹種はトドマツ、アカエゾマツとなっており、令和3年度の造林面積105 haのうち再造林が56haと約5割を占めています。

また、森林内の植林である樹下植栽等が約10年前から増加傾向にあります。一方で、手入れ不足の森林も多く間伐の一層の推進も課題となっています。

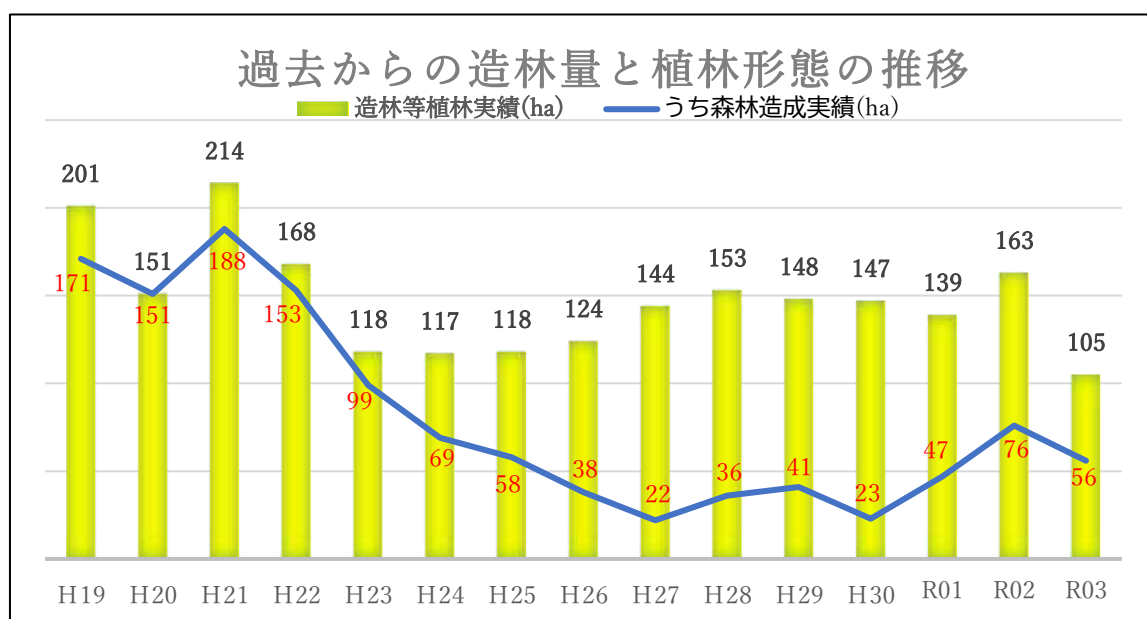
今後、トドマツ人工林を中心に主伐期を迎え、皆伐等の主伐量の増加が見込まれますが、森林資源の保続を図るため植栽による確実な森林造成と搬出間伐を推進していく必要があります。



針葉樹を人工造林(羽幌町・私有林)



トドマツの列状間伐地(羽幌町・私有林)



(留萌振興局林務課の造林補助事業実績より)

6 木材産業

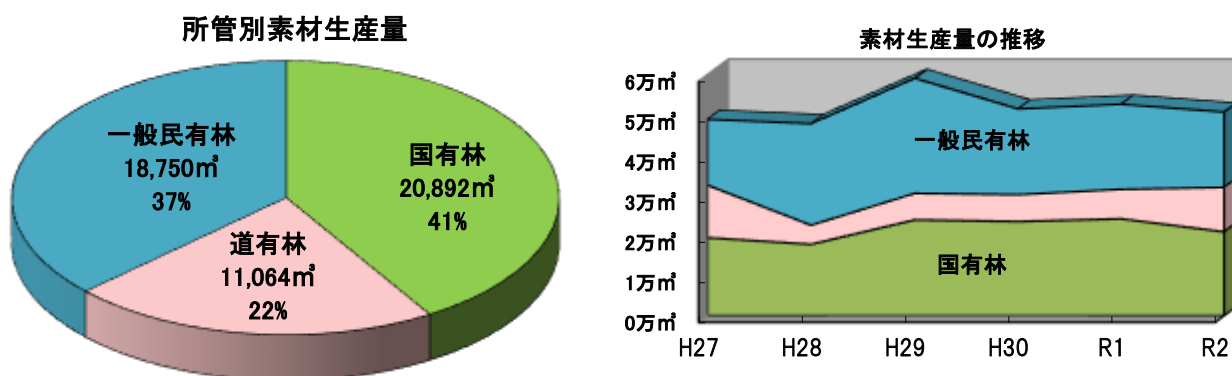
(1) 素材の生産

管内の素材生産量は 50.7 千 m^3 (前年対比 96%) で、所管別構成割合は国有林 41%、道有林 22%、一般民有林 37% で、国有林と一般民有林の占める割合が高くなっています。

また、素材生産量の約 73% にあたる 37.2 千 m^3 がトドマツです。

(2) 素材の消費

管内の木材加工工場の素材消費量は、13.8 千 m^3 (針葉樹 2.8 千 m^3 、広葉樹 11.0 千 m^3) で前年対比 112% となっています。



※令和3年度カラマツ・トドマツ素材流通調査による

(3) 木材工業の現況

ア 製材工場

管内の製材工場は1工場で、原木は針葉樹を利用し建築材を中心に生産しています。

イ チップ工場

管内のチップ工場は1工場で、原木は広葉樹を利用しパルプ用チップを中心に生産しています。

ウ その他林産加工工場

管内のその他の林産加工工場は1工場で、針葉樹を利用し土木用資材を中心に生産しています。

(4) 特用林産物・木材利用推進等

ア 特用林産物

管内では、木炭が生産されています。

イ 木材利用の推進

留萌流域森林・林業活性化協議会との共催によるペレットストーブの燃焼展示及び市町村イベントへの出張貸出、パネル展の開催等により、木材利用の推進を図るとともに、森林認証の取得による地域材の一層の需要拡大に向け、取組を進めています。



ペレットストーブの出張貸出